

高等学校 書道科学習指導案

令和4年9月9日（金）第1・2限
県立川越工業高等学校定時制 普通科1年次
教諭 池田 さくら

1 単元名：漢字の書（拓本学習）～自身の手で拓本手本をつくる～

2 単元について（学習内容の概要）

本単元では、これまでの臨書学習を踏まえ、その手本となっている拓本について学習する。普段の手本がどのように書かれ、刻され、拓本として採られ、継承されてきたかを理解することで、今後の臨書学習をより自分事として捉えられるようにすることを目的とする。また、拓本の基礎的な知識を身に付けることが古典の鑑賞力や作品を味わうための素養となることを期待する。

3 単元の目標及び評価規準

（1）単元の目標

- ① 拓本を採る体験や、そのために必要な情報をグループで共有することで、拓本に関する知識・技能を付ける。 （知識及び技能）
- ② 拓本の違いやよさ、体験を通して自ら手本を作成することについて考え、適した方法を判断し、表現する。 （思考力、判断力、表現力等）
- ③ グループでの協議に積極的に参加し、目的に向かって主体的に体験活動に取り組む。 （学びに向かう力、人間性等）

（2）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
拓本を採る体験や、そのために必要な情報をグループで共有することで、拓本に関する知識・技能を付ける。	拓本の違いやよさ、体験を通して自ら手本を作成することについて考え、適した方法を判断し、表現する。	グループでの協議に積極的に参加し、目的に向かって主体的に体験活動に取り組む。

4 生徒観（学習状況の実態）

本学級は文字を見て感じたことや、作品を見て受けた印象などを言葉で表現することが苦手な生徒が多い傾向にある。一方で様々な活動に前向きに取り組む生徒が多く、話し合いや共同で作業を行う際も声を掛け合って活動している。

5 指導計画

時	指導内容等
1・2	これまでの臨書学習で用いた拓本手本について振り返り、「拓本」について説明する。（教科書 21 ページ下）採拓の道具についても触れ、タンポを自作する。
3・4 本時	拓本のさまざまな種類について実物を見たり、採拓を体験したりしたことを各グループで共有する。「書道の授業で使用する手本はどんなものが適しているか」という問いに向かい、グループで採拓する際の種類を決める。その後、実際に採拓を体験し、手本を自作する。
5・6	自作した拓本手本を用い、臨書学習を行う。実際に手本とした際、選んだ種類は適していたか、採拓の際により工夫できる点はあったかについて振り返る。また、校内の校歌碑や川越にある石碑を紹介し、地域の文化に触れる。

6 拓本学習の指導計画

時	指導内容等	
1・2	これまでの臨書学習で用いた拓本手本について振り返り、「拓本」について説明する。(教科書21ページ下)採拓の道具についても触れ、タンボを自作する。	
3・4 本時	拓本のさまざまな種類について実物を見て、採拓を体験したことについて各グループで共有する。「書道の授業で使用する手本はどのようなものが適しているか」という問いに対し、グループで採拓する際の種類を決める。その後、実際に採拓を体験し、手本を自作する。	書道Ⅰ
5・6	自作した拓本手本を用い、臨書学習を行う。実際に手本とした際、選んだ種類が適していたか、採拓の際により工夫できる点はあったかについて振り返る。また、教科書に掲載されている肉筆との違いについて触れ、感じたことを生徒間で共有する。	
7・8	拓本とその周辺の要素について学習する。教科書に掲載される拓本はとても貴重なものであること、それを裏付ける鑑蔵印についても触れる。拓本は書き手・刻り手・採り手・大切に保管してきた者により今日までもたらされていることを理解する。(教科書に掲載されている)	書道Ⅱ
9・ 10	校内の校歌碑や川越にある石碑を紹介し、地域の文化に触れる。 校内の校歌碑や定礎碑、校名碑を用い採拓をする。	

令和4年度 埼玉県高等学校初任者研修 授業力向上研修

		教科	書道
学校名	川越工業高等学校（定時制）	氏名	池田さくら

授業日時	9月9日（金）	教科・科目	書道 I
学年・年次	1年次	児童生徒数	19名
单元名	漢字の書（拓本学習） ～自身の手で拓本手本をつくる～	本時／この内容を扱う全時数	2／6
教科書及び教科書会社	書 I（光村図書）		

<p>授業のねらい</p> <p>普段の臨書学習で用いている手本はどのようなものであるのかについて考えた上で、拓本について学習する。拓本とはどのようなものか考えることから始まり、その種類や採り方を通して拓本の基礎知識をつける。体験活動として、実際に拓本を採るまでを行う。それにより今後の臨書学習が身近になり、より自分事として捉えられるようにすることを目的とする。また、拓本の知識を身に付けることで古典鑑賞の力や作品を味わうための素養となることを期待する。加えて、「書道の授業で使用する手本はどのようなものが適しているのか」という問いに対し、目的や用途・難易度など、さまざまな状況を鑑みながら、よりよい手本作りを行う。それにより、生徒の発信力や自らの役割を全うする力、チームで目的に向かう力などの能力を育むことにもつなげたい。</p>
<p>メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）</p> <p>いつも見ている手本の正体は！？あなた自身の手でよりよい手本をつくってみよう！</p> <p>エキスパート A→拓本の種類（烏金拓／蝉翼拓）</p> <p>エキスパート B→拓本の採り方の種類（湿拓／乾拓）</p> <p>エキスパート C→拓本の採り方（湿拓／乾拓）</p>
<p>生徒の既有知識・学習の予想</p> <p>一学期の授業内で手本として用いているのは、石碑を写し取った拓本であるという説明はしているが、拓本の採り方や種類の説明はしておらず、記憶に残っている生徒はほぼいないと思われる。</p> <p>〈想定される授業前の答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像できない・わからない。 うまい人の字を加工して白黒反転させている。 文字の外側を黒く塗っている。等
<p>期待する解答の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれていてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）</p> <ul style="list-style-type: none"> 石（や青銅器）に刻した文字をそのまま写し取っている。 文字が反転せずに見える。 拓本を採る際にはコツが必要で、教科書掲載の拓本は良質である。 拓本の採り方により、見え方が変わる。
<p>各エキスパート＜対象の生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイントや、そのために扱う内容・活動＞</p>

<p>○エキスパート A 拓本の種類もいろいろ！（烏金拓／蝉翼拓） 烏金拓と蝉翼拓を比較し、違いを理解する。目的や用途によって適する方法があり、この後の拓本は何が適しているか、自分の考えをまとめる。</p> <p>○エキスパート B 拓本の採り方もさまざま！（湿拓法／乾拓法） 湿拓と乾拓の違い・採り方の違いを理解する。目的や採拓場所によって適する方法があり、この後の拓本には何が適しているか、自分の考えをまとめる。</p> <p>○エキスパート C やってみてわかることもたくさん！体験してみよう（湿拓法／乾拓法） 湿拓と乾拓の採り方の説明をもとに一度採拓し、方法を理解する。難易度や実践の手ごたえをもとに、この後の拓本には何が適しているか、自分の考えをまとめる。</p>
<p>シグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容</p> <p>普段用いている手本（ここでは拓本）についての理解を深めた上で、臨書学習に取り組む。また、肉筆資料などの拓本以外を用いる学習の際に、それらとの比較を通して、古典に関する知識や考え方をより深められるように臨書に取り組む。</p>

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	1学期 楷書 孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘・雁塔聖教序 顔氏家廟碑・倣書	楷書やそれぞれの書風の特徴と筆遣いを理解し、表現する。それぞれの書風を掴んだ上で倣書に臨む。
前時	拓本に関する簡単な説明 タンポづくり（拓本学習①）	次時に取り組むことを理解でき、道具を手作りすることで拓本への興味が湧く。
本時	拓本実習（拓本学習②）	拓本に関する基本的な知識が身に付き、それを活用してよりよい手本について考える。
次時	自作した拓本手本を用いた臨書（拓本学習③）	自作した拓本手本を用い、臨書学習を行う。実際に手本とした際、選んだ種類は適していたか、採拓の際に工夫できる点があったかについて考える。
この後	蘭亭序①（少字数臨書）	肉筆の手本について考える。 蘭亭序に関する基本的な知識を身に付け、基本点画を習得する。

<p>上記の一連の学習で目指すゴール</p> <p>この後の臨書学習に対する資質・能力が高まる。手本として用いられるものは拓本以外にも様々であることに気付く。それらの比較を通して、古典に関する幅広い知識や考え方を身に付ける。</p>
--

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
1限 5分	導入 ・出欠確認 ・座席指示	・ウォーミングアッププリント配布
10分	・本時の学習内容を知る。 ・ウォーミングアップ	・本時の学習内容を説明する。 ・ジグソー学習の流れを説明する。 ・ウォーミングアッププリント回収
15分	エキスパート活動 ・A・B・Cの資料をもとにそれぞれの活動を行い、話し合いながら自分の考えをまとめる。 *Cグループは2つに分ける。 ○いつも見ている手本の正体は？ よりよい手本を作ってみよう！ A 拓本の種類もいろいろ！ (拓本の主要な2種類を取り上げる) B 拓本の採り方もさまざま！ (採拓方法の主要な2種類を取り上げる) C やってみてわかることもたくさん！ 体験してみよう (2種の採拓方法を実際に体験する) 【席移動】	・エキスパートプリント配布 ・話し合いが円滑に進むようにサポートする。 ・Cグループへはやり方のサポートも行う。 ・A、Bグループは比較した後に、どちらの手本が適しているか話し合うように指示する。 ・Cグループは方法を体験した後に、どちらが適しているか話し合うように指示する。
10分	ジグソー活動1 ・席移動・活動の説明。 ・各エキスパート活動でまとめた内容を共有し合う。 ・この後の拓本実習でよりよい手本を作るために、どの種類の拓本を採るか、方向性を話し合う。	・ジグソープリント配布 ・各グループの情報をプリントを読み上げたり、見せ合ったりするだけでなく、教え合うよう指示する。
休み時間	-----	-----
2限 25分	ジグソー活動2 ・道具の準備 ・各グループで決めた方向性で実際に採拓する。 ・時間の限り何度も挑戦する。 ・良いものができた時点で時間が余るようであれば、他の方法も試す。 ・採拓の結果からわかったことを話し合いながらメモする。	・道具を準備し、速やかに準備するよう促す。 ・1度ではなく何度も挑戦するように指示する。 ・他の方法も試す時間があれば試すよう指示する。
5分		

《実践後の振り返り》

1. 生徒の学習の評価（授業前後の変化）

（1）3名の生徒を取りあげて、同じ生徒の授業前と授業後の課題に対する解答がどのように変化したか、具体的な記述を引用しながら示し活動の様子の変化について記す。（3つの課題「1 もともとは何にほられたもの？ 2 どうして白黒が反転している？ 3 よりよい手本にするには何がポイント？」）

生徒	授業前	授業後
1	1→石 2→無回答 3→無回答 ⇒拓本に関する知識・理解が乏しい。	1→石 2→上から墨をのせるから？ 3→みんなで協力する。 上手に出来なくてもそれもまた味!! ⇒自分の中で少し疑問に感じながらも正答に近い説明を言葉にすることができている。
2	1→石 2→文字以外のところを墨でぬったから 3→無回答 ⇒拓本に関する知識・理解が乏しい。 2については考えを書けているが、正答には至っていない。	1→石や木にほられたもの。 2→タンポでいろをつけるとき文字はほられているので文字には色がつかずに文字でないところに色がつくことになる。 3→文字がはっきり見えるようにする。 ⇒白黒反転の理由についてうまく説明ができている。自分で作成することで、採拓時のポイントをイメージすることができている。
3	1→石板 2→文字以外を墨で塗ったから 3→無回答 ⇒拓本に関する知識・理解が乏しい 2については考えを書けているが、正答には至っていない。	1→石板 2→逆ハンコにしたせいで、文字だけ墨がつかなかった。 3→墨の量に気を付ける。 横着しない。 ⇒白黒反転の理由について自分の言葉で説明することができている。採拓時のポイントにも自身の体験を踏まえて答えることができている。

（2）生徒の学習の成果について授業前、授業後に生徒が答えられたことを、先生の事前の想定や「期待する解答の要素」と比べた。

〈知識〉拓本に関する知識は授業前には素材に関することだけであったが、拓本そのものの仕組みや採拓の方法を理解し記入できている例が多くみられた。一方で、授業後でも無解答や、問いに正対した解答ができていない例も見られた。問いの設定や発問の仕方などに工夫の余地があるように思う。

〈ねらいに対して〉本時の授業を通して手本を「より自分事として捉えられる」ことをねらいとした。前時にタンポを自作した際には、自分で作ったものを使いたいので記名したいと話す生徒が数名いた。自身で道具を作ることをきっかけに、次時への興味関心につながられた点はよかった。当日授業後の感想欄には「拓本のつくり方やコツがちょっとわかった」と主体的に答えられているものや「昔の人たちは時間をかけながら製作したことを知ってすごいと思った。また、時間をかけて製作することで、ほかの人たちにもいい影響があって、より楽にできるんだなと感じました。」などの解答があり、それらの点で大いに成果がみられた。しかしながら、「作業が大変で疲れた」等、作業そのものの印象が強く、それ以降の考えが浮かばなかった様子もうかがえる。

2. 生徒の学習の評価（学習の様子）

生徒は全体的に興味をもち前向きに取り組んでいる様子であった。事前に、採拓の道具を自作する時間を設けたことや、資料をわかりやすくレイアウトするなどの工夫をし、言葉選びを行った成果であったように感じる。エキスパート活動では、各エキスパートの活動量の差はあったものの、生徒が意見を交わす場面が多くあり、一通り話し合いを終えたグループ内では、次のジグソーでどのように説明するかを自主的に話し合っているグループも見られた。ジグソー活動では、根拠が明確であればどの方向性でも可能であるように生徒の解答を設定したが、「書道の手本として使うものをつくるとしたら」という問いにしたことで、多面的に幅広い視点から協議をすることで根拠や方向性を見出すという私の想定とは反して概ね同じような解答になってしまった。一方で、最初は烏金拓で採拓したが、墨がにじんでうまくいかなかったので、墨を薄く使う蝉翼拓にしたらうまくいったというグループがあった。専門家ではなく自分たちが採拓するという視点から捉えたグループもあり、自作することを通して「自分事」として捉えている様子がうかがえた。その発想をクロストークの際にも全体で共有できたことはよい点である。以上から、問いの設定に関して成果と課題が見えてきたため、以降はその点を一層考えたい。

3. 授業の改善点

生徒の学習の成果や学習の様子を踏まえ、次の3点について授業の改善点を挙げる。

（1）授業デザイン（課題の設定、エキスパートの設定、ゴールの設定、既有知識の見積もりなど）

「この授業で生徒に何を学んでほしいか」とねらいを定め、課題、ゴールの設定、それを達成するために必要なエキスパート活動の選定の順に組み立てた。それによりねらいが明確化し、ぶれないように意識しながら授業を組み立てられた点はよかった。しかし、エキスパート活動の設定の段階で懸念していたA・B・Cとの活動量の差が授業当日にもみられたため、生徒の活動の様子を想定した上で改善する必要がある。

（2）課題や資料の提示（発問、資料の内容、ワークシートの形式など）

エキスパート資料は、一読すればそれぞれの特徴や長所・短所が分かるような資料にしたが、判断のためのポイントの部分はあえて強調せず、生徒自身が気付くことを想定して作成した。授業内でもこちらからは「良いところ・悪いところ」等を言葉として出さないよう注意した。生徒同士の会話の中で「メリット・デメリットがある」という発言が聞けたため、その部分に関してはよかった。しかし、学力差や言語差により気付くことができない生徒もいたため、そちらへの支援の仕方について考慮すべきであった。ジグソー資料では、わかりやすさを重視してどの方法で採拓するかを記入する欄を枝分かれの形で作成したが、それがかえって一様の結果に流れやすい形式になってしまった。この点の改善が必要である。

（3）その他（授業中の支援、授業の進め方など）

時間配分は授業の様子を見ながら、終わりの時間を定めながら進めた。結果として少し時間が押す場面はあったが、時間内に終えることができた。一方で、生徒への支援という点では課題が残った。活動中に考えが浮かばなかったり、動きが止まったりしている生徒に対しては、ヒントを与えながら記入や活動を促した。しかし本来はこちらからの支援は必要最低限に留めるべきであり、生徒自身が気づく場面が重要であったため、活動中のこちらの動きや資料づくりの段階から工夫が必要であった。

いつも見ている手本の正体は？

あなた自身の手でよりよい手本をつくってみよう

天河

(孔子廟堂碑)

清泉

(九成宮醴泉銘)

春光

(雁塔聖教序)

守道

(顔氏家廟碑)

①一学期に見ていた手本は

と呼ばれるもの！

では、これはどんなもの？予想でも良いので次の質問に答えてみよう！

1、もともとは何にほられたもの？

2、白黒が反転している？

3、よりよい手本にするためには何が

ポイント？

月 日 () 年 番 氏名

② グループの情報共有しよう

Aから順に情報を発表しよう(自分のグループ以外の発表をメモ)

「 A B C 」「〇を付ける

「 A B C 」「〇を付ける

③ 情報をもとに、この後つくる拓本の種類を話し合って決めよう

選んだ方に〇

湿拓法
乾拓法

湿拓法を選んだら…

烏金拓
蝉翼拓

〈理由〉

④ グループで決めた方法で実際にやってみよう！道具を準備して実践！！

⑤ 完成した拓本についてまとめよう

選んだ方に○

湿拓法
かんたくほう



烏金拓
せんよくたく
蝉翼拓

⑥ やってみて気づいたこと・感想を記入しよう

Blank box for recording observations and impressions.

⑦ 最初の質問をもう一度！ 授業で気づいたことをもとに書いてみよう

1、もともとは何にほられたもの？	3、よりよい手本にするためには何が ポイント？
2、べつとして白黒が反転してどうなる？	

⑧ 本日の振り返り

① 拓本についての知識は深まった？

「深まった・まあまあ深まった・あまり深まらなかった・深まらなかった」

② よりよい手本について考えることはできた？

「できた・まあまあできた・あまりできなかった・できなかった」

③ グループでの話し合いに参加できた？

「できた・まあまあできた・あまりできなかった・できなかった」

〈全体を通しての感想〉

Blank box for overall impressions.

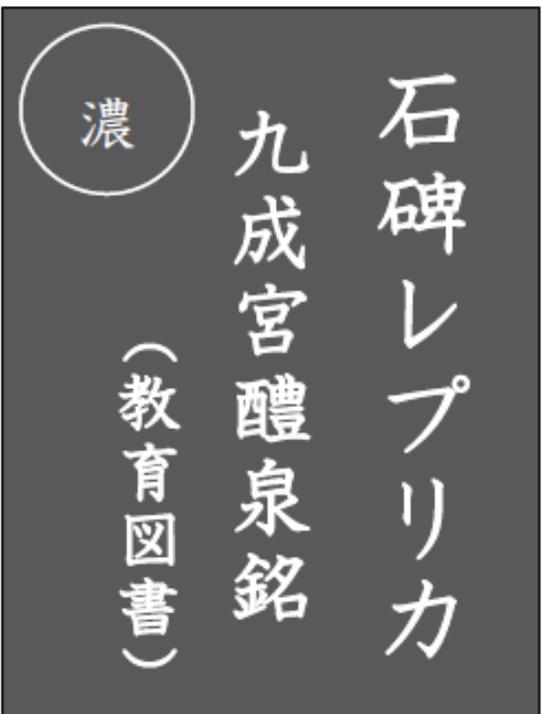
A

たくほん しゅるい

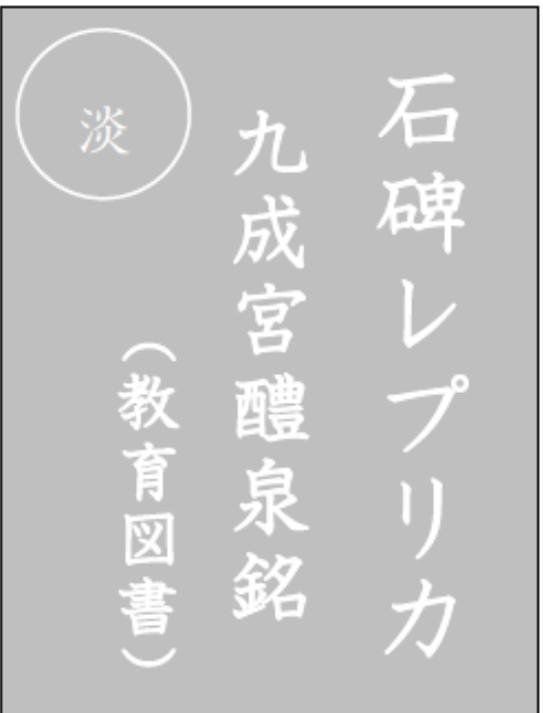
拓本の種類もいろいろ!!

☆二つの拓本を比べて、それぞれの特徴や違いを書き出そう

1



2



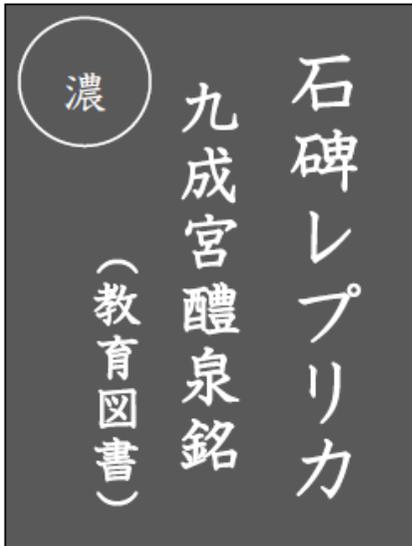
色の違い・文字の見やすさ・自分の好みなど自由に書こう!

〈自分〉

〈みんな〉

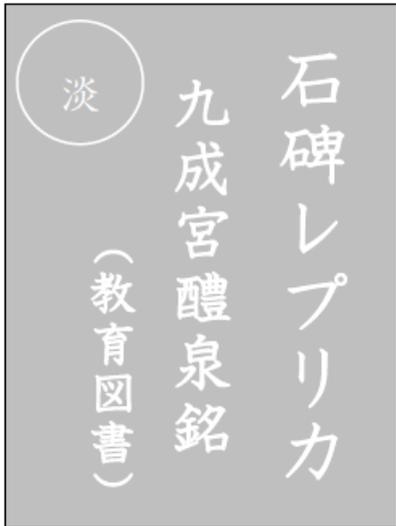
月 日 () 年 番 氏名

1 烏金拓



- ◇ 烏の羽のように黒々と採った、色の濃い拓本のことをいう。
- ◇ 白と黒の境がはっきりしているため、文字が見やすい。
- ◇ 碑の面が平らなものによく使われる。

2 蝉翼拓



- ◇ 透き通った蝉の羽のように色の薄い拓本のことをいう。
- ◇ 文字の中に墨がはみ出ないため、本物に近いものになる。
- ◇ 細かい線までよく見えるが、色の薄さから見えにくい部分もある。

○書道の手本として授業で使うものをつくるのなら、どちらが良いと思っ…その理由も書こう

〈文字の見やすさや作業の量、難しさ…など〉

〈理由〉

選んだ方に○

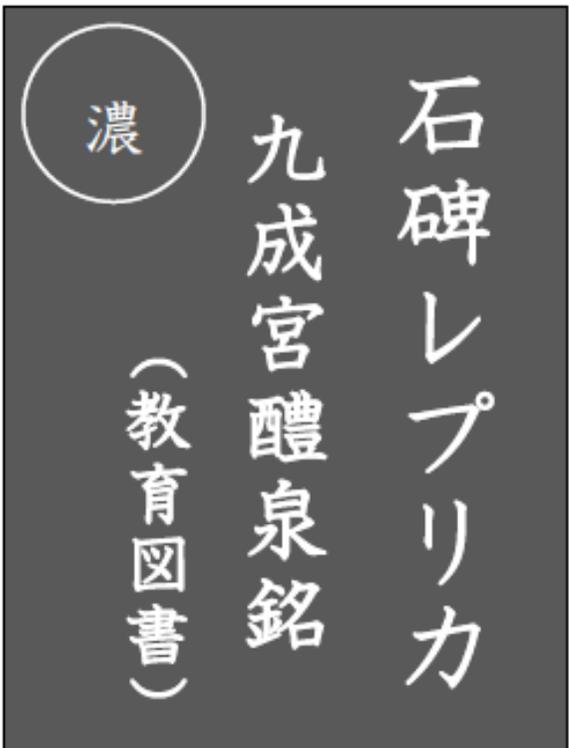
- 1 烏金拓
- 2 蝉翼拓

B

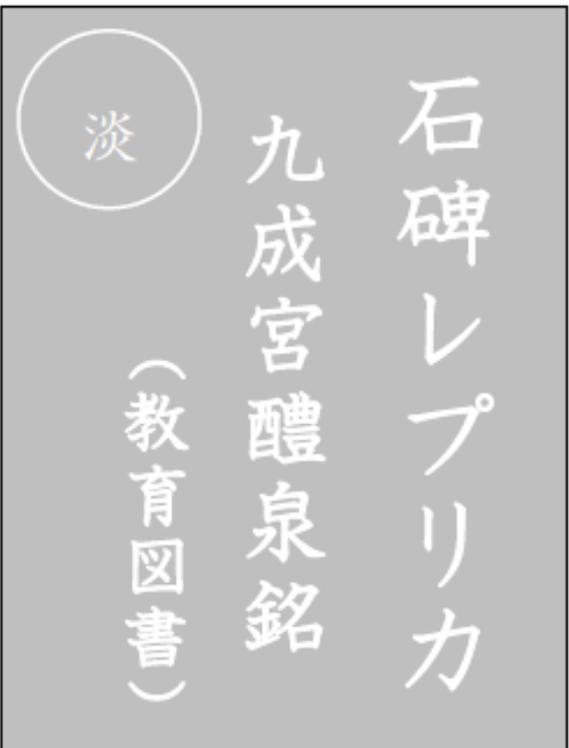
たくほん と かた
拓本の採り方もさまざま!!

☆二つの拓本を比べて、それぞれの特徴や違いを書き出そう

ア



イ



色の違い・文字の見やすさ・自分の好みなど自由に書こう!

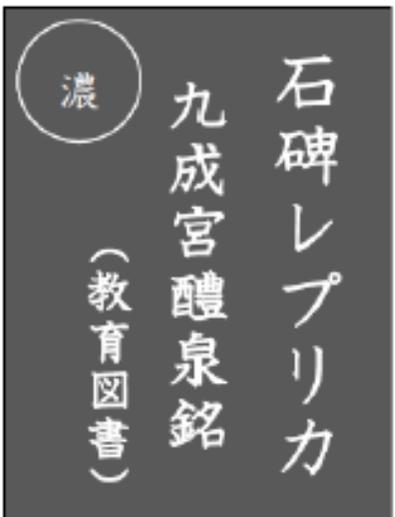
〈自分〉

〈みんな〉

月 日 () 年 番 氏名

ア 湿拓法

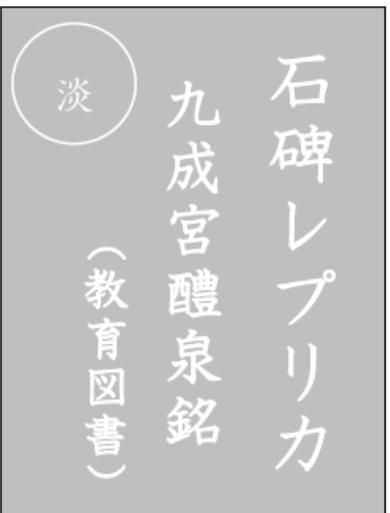
しつたくほう



- ◇紙を湿らせ、タンポに墨を含ませて拓本を採る方法のこと。
- ◇時間と手間がかかる。
- ◇より本物に近い文字の形を写すことができる。

イ 乾拓法

かんだくほう



- ◇乾いた紙のまま、専用の墨で拓本を採る方法のこと。
- ◇水を使えない時や、急いでいる時などに使われる方法。
- ◇使用する道具が少なく、簡単にできる。
- ◇文字は鮮明に出ない。

○書道の手本として授業で使うものをつくるとしたら、どちらが良いと思っ…その理由も書こう

〈文字の見やすさ・作業の量・難しさ…など〉

〈理由〉

- 選んだ方に○
- ア 湿拓法
 - イ 乾拓法

C

わ
やってみて分かることもたくさん!! 体験してみ
たいけん

よう! ☆二つの拓本の採り方を体験しよう

しつたくほう

● 湿拓法



ひつよう
必要な道具

- ① 新聞紙
- ② 半紙
- ③ テープ
- ④ 霧吹き
- ⑤ タオル
- ⑥ 打ち込み刷毛
- ⑦ 硯
- ⑧ 固形墨
- ⑨ 墨汁
- ⑩ タンポ



① 新聞紙を広げ、碑を置く。碑の上に半紙を乗せ、上下をテープでとめ、霧吹きで全体を濡らす。*半紙の真ん中からかけよう!



② 濡らしたタオルで半紙をおおえ、碑と半紙をぴったりくっつける。

*タオルは水に濡らし、軽く絞るっ!

*真ん中からおおえ、外側に空気を逃がそう!



③ 打ち込み刷毛(今回は古い筆の先を切ったもの)で文字がほられている部分をたたき、へこませる。その後は半紙が8割乾くまで待つ。
 *8割がポイントー完全に乾く少し前まで待とう!



〜半紙が乾くのを待つ間に〜

④ 硯の平らな部分に墨汁10円玉の大きさくらいを出し、固形墨を磨る。
 *墨汁だと薄いため、粘りが出るまで濃く磨ろう!!



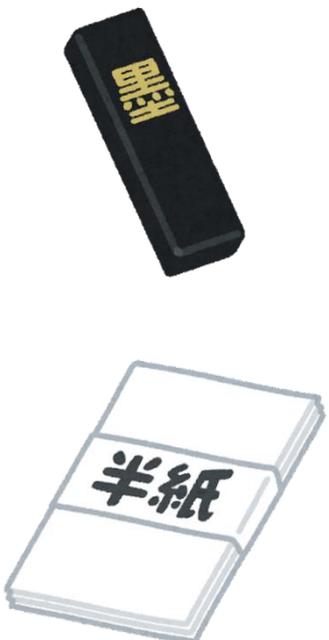
⑤ タンポに墨をつけ、もうひとつのタンポと合わせ墨をなじませる。

*多すぎ注意!ほんの少しでOK



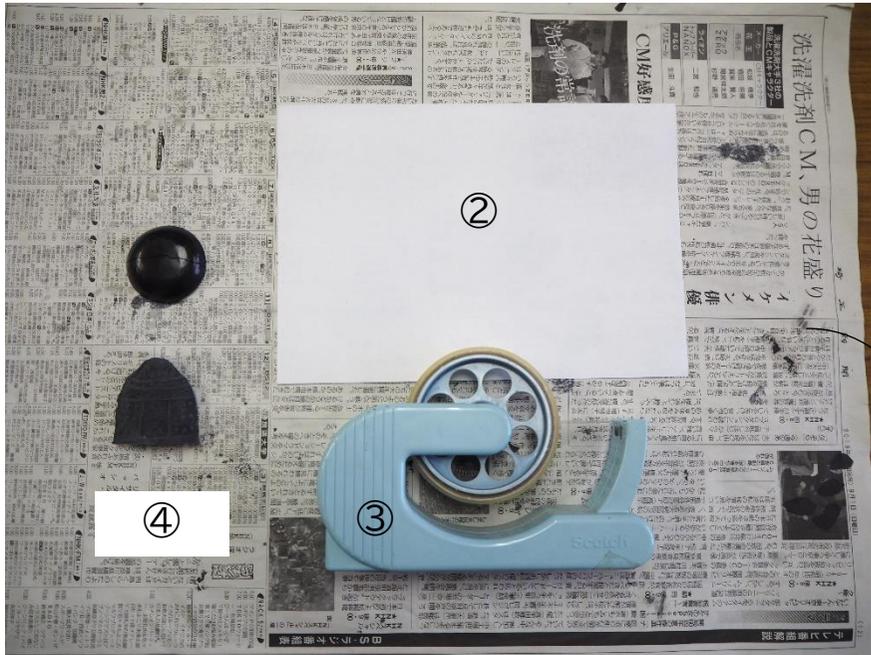
⑥ 碑に墨を打つ。一度にたくさんではなく、少しずつ薄く墨を重ねる。

*薄くすると蝉翼拓、何度も墨を重ね、濃くすると烏金拓になります!



かんたくほう 乾拓法

① 新聞紙
しんぶんし

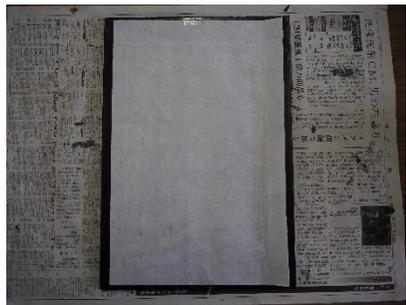


②

③

④

- ひつよう
必要な道具
- ① 新聞紙
しんぶんし
 - ② 半紙
はんし
 - ③ テープ
 - ④ 拓本墨
たくほんすみ



- ① 新聞紙を広げ、碑を置く。碑の上に半紙を乗せ、上下をテープでとめる。



- ② 拓本墨で半紙をこする。まず全体的に軽くこすり、その後文字の部分**を強めにこすり文字をはっきりさせる。**
- * 田を描くためにこするのがポイント！

ふた ほうほう たいけん
〇二つの方法を体験してわかったことや、感想を書け

かんせいど むずか じぶんは こちが 好きなど、自由で書け！

自分

みんな

•	•

•	•

しつじょう てほん じょうか
〇書道の手本として授業で使ったら、どっちの方が良いと思っその理由も書け

も じ じょう じょう じょう じょう じょう じょう
文字の見やすさ・作業の量・難しさを など

えら ほう
選んだ方に〇

しつじょう
湿拓法

かんたくほう
乾拓法

理由

理由

月 日 () 年 番 氏名